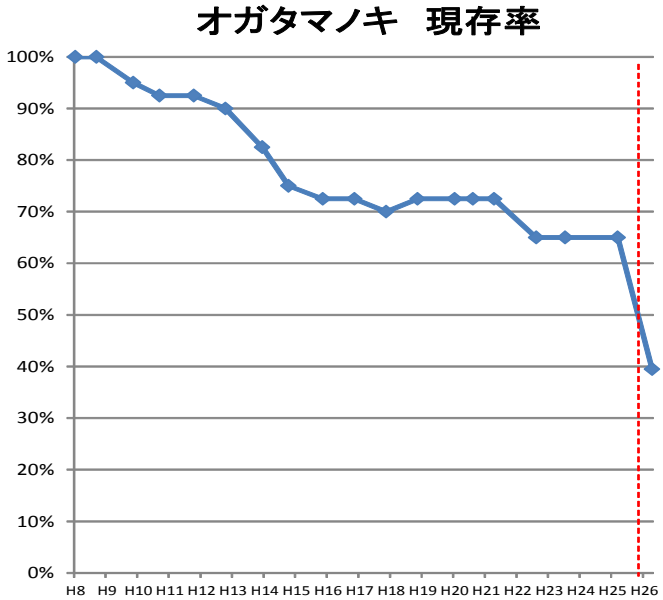
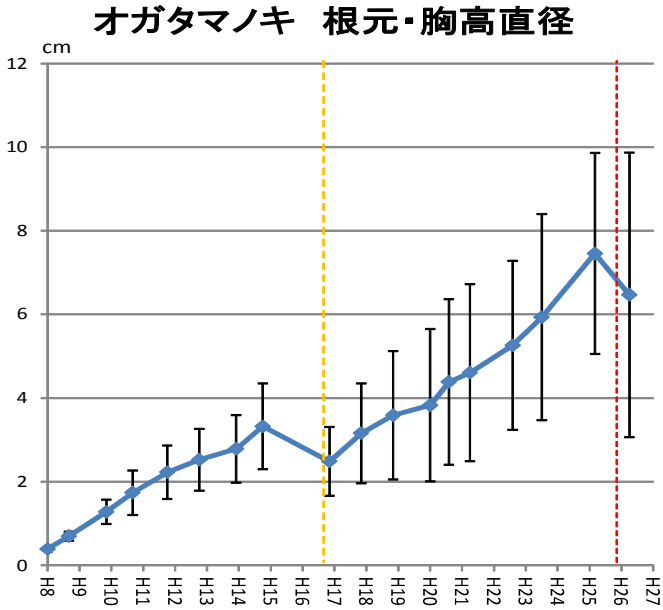
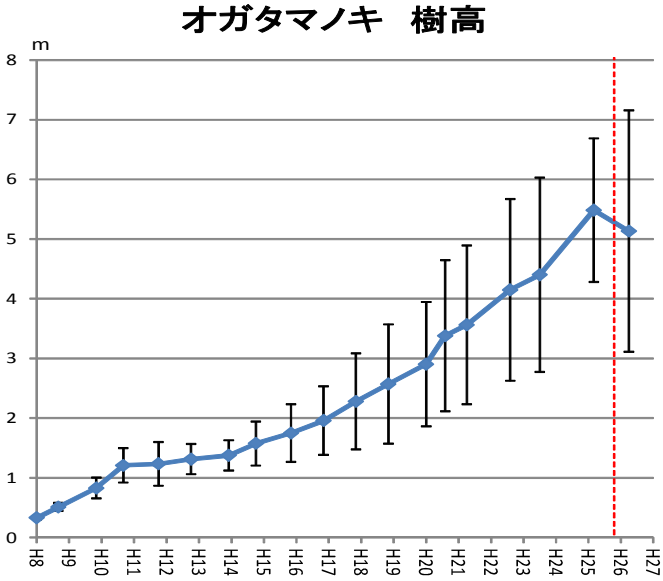
樹種名	オガタマノキ
科　目	モクレン科
学　名	*Michelia　compressa*
分　布	本州の関東中南部以西と四国の海岸部、九州の低地、南西諸島に分布。
樹木特性	半陰樹であり、暖地の山地に自生する。
用　途	材はかたくて家具材などとして重要である。 家具・楽器・器具材、床柱としても利用。
植栽本数/面積 （植栽密度）	233 本／ 0.05ha （4,000 本／ ha）
特　徴	【樹　形】 常緑高木であり通常樹高は 10~15m の高木であるが、樹齢数百年を閲した木には 20m 以上に達するものも少なくない。 葉は倒卵状楕円形でやや肉厚の革質、表面には強い光沢がある。 2 月から 4 月にかけて芳香の強い直径 3cm の花冠が帯黄白色で基部がやや紅紫色を帯びた花を、枝の先端近くの葉腋（ようえき）につける。 また、ミカドアゲハの食樹としても知られている。
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後からの枯死により現存率は 39.5 %である。また、植栽後 3 年目からシカの食害（葉と新芽）も発生した。植栽から 10 年を経過した頃から各被害による枯死も減少し順調に生育している。植栽から 18 年を経過した現在の平均樹高は 6.5m 程度となっている。
被　害	平成 11 年頃からほぼ全ての植栽木にシカの食害（葉と新芽）が発生した。被害木は上長生長が停止し盆栽のような樹形になっていたが、試験地の外周に獣害対策ネットを設置したことによって食害が減少した。ウサギの樹皮食害も受けたが枯死までには至らなかった。 植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。（延べ駆除本数　コウモリガ 1 本、カミキリムシ類 8 本）幹の根際が巻き枯らし状に被害を受け枯死するものもあった。



【現存率】
植栽直後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。
平成 22 年度以降の枯死は見られない。
林内の照度調整を図るため平成 22 年度に本数調整伐を実施した。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 39.5%であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



【根元・胸高直径】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 6.47 ㎝であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
※　オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



【樹　高】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 5.13m であった。
※　赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》
オガタマというのは招霊（おきたま）のことといわれ、神事に用いられてきた。香りが高く、神社や庭に植えられる。